第38回

三重県消防職員 意見発表会で最優秀賞受賞

消防職員の資質の向上を目的として、4月10日に第38回三重県消防職員意見発表会が開催され、県内8消防本部の代表職員が消防・防災に関する意見を発表し、鳥羽市消防本部の山下慎也さんが最優秀賞を受賞しました。また山下さんは、4月24日に岐阜県大垣市で開催された東海支部意見発表会に三重県消防職員の代表として出場し、優秀賞に選ばれました。

消防本部 ☎㉕2821

命のチェックリスト ～市民向け重症度判定チェックリストの運用～

鳥羽市消防本部 山下慎也(33)

「ドクターヘリ要請です。80歳女性が山の斜面から滑落し、骨盤骨折の疑いがあります」

これは、消防署が覚知した、ある離島の診療所医師からの119番通報です。現在鳥羽市には、入院可能な2次医療機関は無く、高度な処置が必要な場合は、伊勢市まで行かなくてはなりません。各離島には診療所はあるものの、救急事案では、島民が船の手配を行い本土まで搬送し、本土側の港で待機した救急隊に引き継ぎ、そこから病院まで救急搬送されます。このような状況から、覚知から病院収容までの所要時間は長時間に及びます。

このように離島で発生した、早期治療を要する重症救急事案では、地理的に相当不利であると私は、常に考えるようになりました。どこにいても、早急に救急医療を受けることができないだろうか。そう思っていた頃、三重県でドクターヘリが運航開始されました。

ドクターヘリの目的は、重症者の救命率向上と、後遺障害の軽減です。このドクターヘリの活用は、地理的不利な重症者に対しても、早期に救急現場に到着した医師が現場から治療を開始するとともに、搬送時間の短縮が可能です。

しかし、ここで2つの大きな課題に直面しました。まず一つ目は、鳥羽市の離島には消防出張所が無いため、ドクターヘリの誘導は、地元消防団や市民が行わなくてはならないことです。この課題は、ドクターヘリ運航開始から1年をかけ、全ての離島で、医師や消防団、自治会、漁協の協力を得て想定訓練を実施することにより、クリアする事ができました。

二つ目の課題は、医師が不在時の対応です。不在の場合は、市民からの通報内容から消防署員がドクターヘリ対応事案かどうかを判断し、ドクターヘリを要請しなければなりません。

そこで私は、市民向け重症度判定チェックリストの運用を提案します。これは、救急隊が運用しているチェックリストを元に作成し、市民にわかりやすいようにYes、No形式を採用します。傷病者の症状に合わせてYes、Noで選択していくことで最終的に重症度とドクターヘリ対応かどうかを判断します。このチェックリストが活用できれば、通報者が傷病者を観察することで、異常を確認し、重症度を判断する事が可能です。また、消防署にも同じチェックリストを置き、相互が確認する事で情報の共有を図り、ドクターヘリの早期要請につなげます。

さらには、離島以外の市民や市内の事業所にもこのチェックリストを周知し、運用することで傷病者の重症度を判断し、市全体での救命率向上を目指します。人は自然災害や事故、急病でいつ命が危険にさらされるか分かりません。そして、その場所が病院から遠く、命を救うためには不利な状況も考えられます。だからこそ、市民と消防が共通認識を持ち、連携することで命のピンチを生きるチャンスへ変えていくことができるのではないでしょうか。どこで倒れてもみんなで救命できる。そんな救急医療に強い街づくりを目指します。

（発表文一部編集）